



# 神田先生の思い出

長谷川一郎



今回、はからずも神田茂記念賞を拝受することになり、身に余る光栄と存じますと共に、心から有難く感謝する次第であります。

受賞の理由としては、天文情報の交換及び軌道計算に関する業績とのことであります。この点についても、私は何らお役に立つことはしていないので、本当に恐縮に存じている次第であります。ここに改めて、御礼申し上げます。さて、

受賞理由の天文情報の交換とは、恐らく山本速報の編集のことを指しておられるものと推察されますが、これは、もともと山本一清先生が、先生の花山時代からガリ版刷で発行しておられたものであります。ところが1959年に先生がお亡くなりになった時、山本天文台の山本進氏（先生のご長男）から編集を手伝うようにとのご指示がありましたので、私は、同氏のご指導のもとに細々となんとかお手伝いをして来ただけのことであります。この速報の発送や事務の本当に面倒な仕事は、全部、山本進氏がお一人で処理されていまして、私には、それらには一切タッチしていないのが実情であります。これが、恐縮に思っている理由の一つなのであります。

軌道計算も、私にとっては、面白いので勝手にやって来たことでありまして、この点についても、正直いって、恐縮に存じている次第であります。

しかし、天文ニュースの速報や軌道計算は、神田茂先生が長年にわたって手がけておられたことでありまし

て、今回の私の受賞には、何か、浅からぬ因縁を感じるのであります。この機会に、改めて神田先生のご学恩を思い起すのであります。私は神田先生に1948年に初めてお目にかかりました。それ以来、度々お話を承ったり、お手紙をたくさん頂戴致しました。その多くは、彗星の軌道計算のことでありましたが、古代の彗星記録についてもいろいろとお教をいただきました。特に朝鮮の古記録についてはお手数をかけました。これらの中には、軌道を決定することが出来るものがあって、まだ誰も手をつけていないものも、いくらかあります。

また暦法のことについてもよくお話を承りました。一度、三島神社の近くへ、三島暦の版木の見学にお伴したことがありました。その時、旧東海道線の丹那トンネルを通った時、トンネルの入口がいつまでも見えつづけるか、列車の最後部で一緒に確かめたことを今、思い出します。先年、先生は大病をなさいましたが、幸い、再びお元気になられました。そして、毎年春に開かれる彗星会議にはお亡くなりになる年まで度々ご出席下さり、いつも彗星に関するご講話を承ることが出来ました。これは、会議出席者にとっては、まことに大きな喜びであり、先生の良い思い出であります。

今回、この神田先生の記念賞をいただいた日の夕刻、受賞者の方々や、本会理事の方達とご一緒に先生のお墓にお参りしたことは、私にとりましては、有難いことであり、また、良い思い出となりました。

